2．様式集（国土交通省）

掲載 URL（東北地方整備局ホームページ）

http://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00097/k00910/kyoutuu/h19siyousho.htm

様式集目次（国土交通省）

（1） 工事打合簿 …… 11
（2） 材料確認願 …… 12
（3） 段階確認書 …… 13
（4） 請負代金内訳書 …… 14
（5） 工事履行報告書 …… 15
（6）－１ 施工体制台帳（様式例－１） …… 16
（6）－２ 施工体制台帳（様式例－２） …… 17
（6）－３ 施工体制台帳（施工体系図） …… 19
（6）－４ 施工体制台帳（様式例－４） …… 21
（7） 再生資源利用計画書（実施書） …… 23
（8） 再生資源利用促進計画書（実施書） …… 25
（9） 工程表 …… 27
(10) 品質証明書 …… 28
(11) 確認・立会願 …… 29
(12)－１ 事故発生報告書 …… 30
(12)－２ 事故報告書（請負業者用） …… 31
(12)－３ 事故報告書（請負業者用） …… 33
(12)－４ 事故報告書（請負業者用） …… 35
(20) 現場代理人等通知書 …… 37
(21) 経歴書 …… 38
(22) 現場代理人等変更通知書 …… 39
(28) 工事費構成書 …… 40
(32) 貸与品借用（返納）書 …… 41
(33) 支給品受領書 …… 42
(34) 支給品精算書 …… 43
(35) 貸与品・支給品亡失き損報告書 …… 44
(36) 現場発生品調書 …… 45
(37) 除雪作業日報 …… 46
(38) 除雪月報 …… 47
(39) 除雪機械点検整備計画書 …… 48

(66)　指定部分引渡書 …… 49
(67)　指定部分完成通知書 …… 50
(68)　引渡書 …… 51
(69)　完成通知書 …… 52
(73)　請負工事既済部分検査請求書 …… 53
(75)　修補完了報告書 …… 54
(77)　確認書（かし修補） …… 55
(78)　完成届（かし修補） …… 56
(79)　かし修補引渡書 …… 57
(86)　　X－Rs－Rm管理データシート …… 58
(86)の2　X－Rs－Rm管理データシート　その２ …… 59
(87)　X－Rs－Rm管理図 …… 60
(88)　土の試料整理表Ⅰ …… 61
(89)　土の直接せん断試験表１ …… 62
(90)　土の直接せん断試験表２ …… 63
(91)　土の遠心含水当量（JIS A1207） …… 64
(92)　現場密度測定試験（置換法） …… 65
(93)　現場密度測定試験（モールド円筒法） …… 66
(94)　現場飽和度・空気間ゲキ率測定試験（置換法） …… 67
(95)　現場飽和度・空気間ゲキ率測定試験（モールド円筒法） …… 68
(96)　骨材の単位容積重量試験（JIS A1104） …… 69
(97)　ホットビンにおけるふるい分け試験 …… 70
(98)　まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験結果表（JIS A1112） … 71
(99)　コンクリート中の塩分測定表 …… 72
(100)　総括表（１） …… 73
(101)　総括表（２） …… 74
(102)　生コンクリート品質記録表（1）配合 …… 75
(103)　コンクリート二次製品の品質記録表（1）配合 …… 76
(104)　（２）材料特性 ①セメント …… 77
(105)　（２）材料特性 ②骨材 …… 78
(106)　（２）材料特性 ③混和材料 …… 79
(107)　（３）コンクリートの品質試験結果 …… 80
(108)　（３）コンクリート二次製品の品質 …… 81

(109)　（４）打設関係 …… 82
(110)　くい打成績表 …… 83
(111)　機械ボーリング作業日報 …… 84
(112)　浸透探傷試験記録書 …… 85
(113)　放射線透過試験記録書 …… 87
(114)　塗装膜厚測定表 …… 88
(115)　塗装膜厚測定成績表 …… 89
(116)　場所打杭（機械掘削）の施工記録 …… 90
(117)　場所打コンクリート杭施工記録表 …… 91
(118)　鉄筋ガス圧接超音波探傷検査記録 …… 92
その他　工事打合簿（添付方式適用帳票用） …… 93

（白　紙）

様式（1）

工　事　打　合　簿

発　議　者	□発注者　　□請負者	発議年月日	平成　　年　　月　　日
発議事項	□指示　□協議　□通知　□承諾　□報告　□提出　□届出　□その他（　）		
工　事　名			

（内　容）

添付図　　葉、その他添付図書

処理・回答	発注者	上記について□指示・□承諾・□協議・□通知・□受理します。 □その他 平成　　年　　月　　日
	請負者	上記について□了解・□協議・□提出・□報告・□届出します。 □その他 平成　　年　　月　　日

総括監督員	主任監督員	監督員

現場代理人	主任(監理)技術者

（A4版）

様式（2）

材　料　確　認　願

平成　　年　　月　　日

工事名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

標記工事について、下記の材料確認を実施願います。

記

材料費	品質管理	単 位	搬入数量	確　認　欄				備 考
				確認年月日	確認方法	合格数量	確 認 印	

主　任 監督員	監督員

現　場 代理人	主　任 (監　理) 技術者

(A4 版)

様式（3）

段　階　確　認　書

施　工　予　定　表

平成　　年　　月　　日

特記仕様書第　　条に基づき、下記のとおり施工段階の予定時期を報告いたします。

請負業者名：

工事名　　現場代理人名等：　　㊞

種　別	細　別	確認時期項目	施工予定時期	記　事

平成　　年　　月　　日

通　知　書

下記種別について、段階確認を行う予定であるので通知する。

監督職員名：

確認種別	確認細別	確認時期項目	確認時期予定日	確認実施日等

平成　　年　　月　　日

確　認　書

上記について、段階確認を実施し確認した。

監督職員名：　　㊞

（A4版）

様式（4）

平成　　年　　月　　日

殿

住所

氏名　　㊞

請　負　代　金　内　訳　書

工　事　名
契約年月日　　年　　月　　日
工　　期　　年　　月　　日から　　年　　月　　日まで

費　目	工　種	種　別	細　別	規　格	単位	員　数	単価	金　額

（A4 版）

様式（5）

工　事　履　行　報　告　書

工事名			
工　期	平成　　年　　月　　日　～　平成　　年　　月　　日		
日　付	平成　　年　　月　　日　（　　月分）		
月　　別	予定工程％ （　）は工程変更後	実施工程　％	備　　考
（記事欄）			

主任監督員	監督員

現場代理人	主任（監理）技術者

（A4版）

様式（6）－1

《参　考》　　平成　　年　　月　　日

施工体制台帳　様式例－1

施　工　体　制　台　帳

［会 社 名］＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

［事業所名］＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

	許可業種	許可番号	許可(更新)年月日
建設業の許可	工事業	大臣　特定 第　　号 知事　一般	年　月　日
	工事業	大臣　特定 第　　号 知事　一般	年　月　日

工事名称及び工事内容			
発注者名及び住所	〒		
工期	自　年　月　日 至　年　月　日	契約日	年　月　日

	区分	名称	住所
契約営業所	元請契約		
	下請契約		

発注者の監督員名		権限及び意見申出方法	

監督員名		権限及び意見申出方法	
現場代理人名		権限及び意見申出方法	
監理技術者名	専任 非専任	資格内容	
専門技術者名		専門技術者名	
資格内容		資格内容	
担当工事内容		担当工事内容	

（記入要領）1　上記の記載事項が発注者との請負契約書や下請負契約書に記載ある場合は、その写しを添付することにより記載を省略することができる。
2　監理技術者の配置状況について「専任・非専任」のいずれかに○印を付けること。
3　専門技術者には、土木・建築一式工事を施工する場合等でその工事に含まれる専門工事を施工するために必要な主任技術者を記載する。（監理技術者が専門技術者としての資格を有する場合は専門技術者を兼ねることができる。）

（A4版）

様式（6）－2

《参　考》

施工体制台帳　様式例－2

《下請負人に関する事項》

会社名		代表者名	
住所 電話番号	〒		(TEL　－　－　)
工事名称 及び 工事内容			
工期	自　年　月　日 至　年　月　日	契約日	年　月　日

	施工に必要な許可業種	許可番号	許可(更新)年月日
建設業の許可	工事業	大臣　特定 知事　一般　第　号	年　月　日
	工事業	大臣　特定 知事　一般　第　号	年　月　日

現場代理人名	
権限及び意見申出方法	
※主任技術者名	専任 非専任
資格内容	

安全衛生責任者名	
安全衛生推進者名	
雇用管理責任者名	
※専門技術者名	
資格内容	
担当工事内容	

※［主任技術者、専門技術者の記入要領］

1　主任技術者の配置状況について［専任・非専任］のいずれかに○印を付すること。

2　専門技術者には、土木･建築一式工事を施工の場合等でその工事に含まれる専門工事を施工するために必要な主任技術者を記載する。（一式工事の主任技術者が専門工事の主任技術者としての資格を有する場合は専門技術者を兼ねることができる。）

　複数の専門工事を施工するために複数の専門技術者を要する場合は適宜欄を設けて全員を記載する。

3　主任技術者の資格内容（該当するものを選んで記入する）

①経験年数による場合

1)大学卒[指定学科] 3年以上の実務経験
2)高校卒[指定学科] 5年以上の実務経験
3)その他　10年以上の実務経験

②資格等による場合

1)建設業法「技術検定」
2)建築業法「建築士試験」
3)技術士法「技術士試験」
4)電気工事士法「電気工事士試験」
5)電気事業法「電気主任技術者国家試験等」
6)消防法「消防設備士試験」
7)職業能力開発促進法「技能検定」

（A4版）

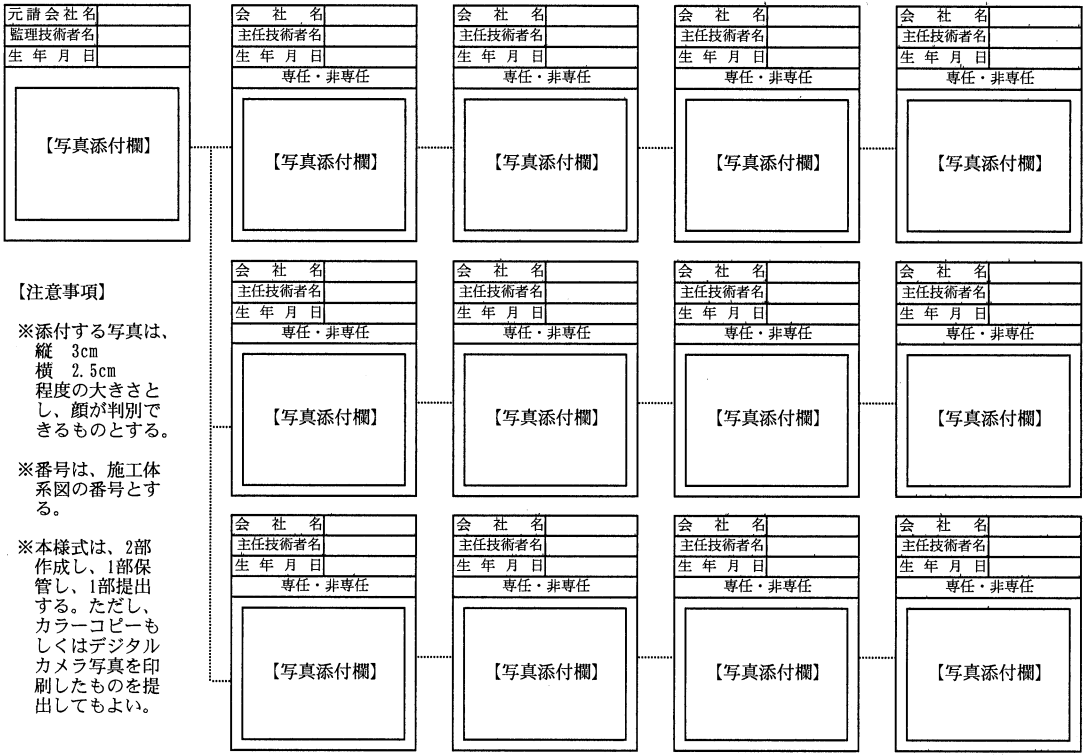
（白　紙）

様式（6）－4

《参　考》

施工体制台帳　様式例－4（工事担当技術者）

工事担当技術者台帳



【注意事項】

※添付する写真は、縦　3cm　横　2.5cm　程度の大きさとし、顔が判別できるものとする。

※番号は、施工体系図の番号とする。

※本様式は、2部作成し、1部保管し、1部提出する。ただし、カラーコピーもしくはデジタルカメラ写真を印刷したものを提出してもよい。

（A4版）

（白　紙）

様式（9）

工　　程　　表

平成　　年　　月　　日

（発注者）　　殿

工　事　名

工　　期　自　平成　　年　　月　　日　至　平成　　年　　月　　日

請負者　住所

氏名　　㊞

月 / 日 / 工種	月			月			月			月			月		
	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21

記載要領

1　工種は工事数量総括表の工種を記載する。（工種以外でも必要なものは、記載する。）

2　予定工程表は黒実線をもって表示する。また、変更契約の工程は下段に黒点線もしくは赤実線をもって表示する。

（A4 版）

様式（10）

平成　　年　　月　　日

品　質　証　明　書

工事名：

品　質　証　明　記　事				
品質証明事項	実　施　日	箇　　所	品質証明員氏名　㊞	記　　事

社内検査した結果、工事請負契約書、図面、仕様書、その他関係図書に示された品質を確保していることを確認したので報告します。

請負者　住　所

氏　名

（A4 版）

様式（11）

確　認　・　立　会　願

主任監督員	監督員

現場代理人	主任（監理）技術者

確　認　・　立　会　事　項

工事名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　平成　　年　　月　　日

下記の確認・立会を願いたい

記

工　種	
場　所	
資　料	
希望日時	月　　日　　時

確認立会員	
実施日時	月　日　時
記　事	

（A4版）

様式（12）－1

平成　　年　　月　　日

地方整備局
事務所長
殿

請負者名称
現場代理人　　㊞

事　故　発　生　報　告　書

別紙、事故報告書のとおり事故が発生したので報告します。

（A4 版）

様式（20）

現　場　代　理　人　等　通　知　書

平成　　年　　月　　日

支出又は分任支出負担行為担当官（官職氏名）　　殿

（請負者名）　　㊞

平成　　年　　月　　日付けをもって請負契約を締結した○○○○工事について工事請負契約書第 10 条に基づき現場代理人等を下記のとおり定めたので別紙経歴書を添えて通知します。

記

現場代理人氏名

主任技術者又は
監理技術者氏名※

専門技術者氏名

※「資格者証（写し）」を添付する。

（A4 版）

様式（21）

平成　　年　　月　　日

経　　歴　　書

現場代理人等氏名　　㊞

現　　住　　所

生　年　月　日

最　終　学　歴

資格及び資格番号

職　　歴

（A4 版）

様式（22）

平成　　年　　月　　日

支出又は分任支出負担行為担当官（官職氏名）　　殿

（請負者名）　　㊞

現場代理人等変更通知書

工　事　名

平成　　年　　月　　日付けで通知した上記工事の現場代理人及び技術者を下記のとおり変更したいので、別紙経歴書を添え、契約書第 10 条に基づき通知します。

記

現場代理人等変更年月日	平成　　年　　月　　日
変更する現場代理人等区分	

旧現場代理人等氏名	新現場代理人等氏名
変　更　事　由	

※「資格者証（写し）」を添付する。

備考１．新現場代理人等の記入内容は様式(20)に準ずる。

（A4 版）

様式（28）

工　事　費　構　成　書

事務所名：
工事名：

工事区分	工　種	種　別	細　別	規　格	単　位	工事数量	比率（%）

様式（32）

貸与品借用（返納）書

分任物品管理官（官職氏名）　　殿

平成　　年　　月　　日

請負者（住所）
（氏名）
現場代理人　　㊞

工事請負契約書第 15 条第３項（第９項）に基づき、下記のとおり貸与品を借用（返納）する。

記

工事名					契約年月日	平成　年　月　日	
品　目	単 位	数　量	貸与期間	受領場所	返納場所	貸与条件	備考

備考　１．監督職員に提出
２．借用（返納）の文字は該当するもののみ記入すること。
３．第３項（第９項）の文字は該当するもののみ記入すること。

（A4 版）

様式（33）

支　給　品　受　領　書

分任物品管理官（官職氏名）　　殿

平成　　年　　月　　日

請負者（住所）
（氏名）
現場代理人　　㊞

下記のとおり支給品を受領しました。

記

工事名					契約年月日	平成　年　月　日
品　目	規　格	単　位	数　量			備　考
			前回まで	今　回	累　計	

備考　１．監督職員に提出

（A4 版）

様式（34）

支　給　品　精　算　書

平成　　年　　月　　日

分任物品管理官（官職氏名）　　殿

請負者（住所）
（氏名）
現場代理人　　㊞

下記のとおり支給品を精算します。

記

工事名				契約年月日	平成　年　月　日
品　目	規　格	単位	数　量		備　考
			支給数量	使用数量	残 数 量	

※ 主任監督員 証　明　欄	上記精算について調査したところ事実に相違ないことを証明する。 平成　　年　　月　　日 （官職氏名）　　㊞	※物品管理簿登記 平成　年　月　日 ㊞

備考　１．監督職員に提出
　　２．※は主任監督員が記入する。

（A4 版）

様式（35）

貸与品
支給品　亡失き損報告書

平成　　年　　月　　日

分任物品管理官（官職氏名）　　殿

請負者（住所）
（氏名）
現場代理人　　㊞

下記のとおり（貸与品・支給品）を（亡失・き損）しましたので報告します。

記

工事名		受領年月日	平成　　年　　月　　日
物品名又は機械名	亡失・き損等の日時及び時間と場所	事故の原因及び処置状況	賠償額

備考　1．監督職員に提出
2．1　事故の概要及び処置状況は別紙とし、詳細に記入すること。
2　必要により図面、写真、賠償見積書及び証明書を添付すること。
3．貸与品、支給品、亡失、き損は該当するもののみ記入すること。

（A4版）

様式（36）

平成　　年　　月　　日

主任監督員（官職氏名）　　殿

請負者（住所）
（氏名）
現場代理人　　㊞

現　場　発　生　品　調　書

平成　　年　　月　　日付けをもって請負契約を締結した○○○○工事における下記の発生品を引き渡します。

記

品　　名	規　　格	単位	数　　量	摘　　要

（A4 版）

様式（37）

除　雪　作　業　日　報

主任監督員	監　督　員

工事

平成　　年　　月　　日（　　曜日）　天気　　気温　　降雪量　　現場代理人　　印

機械名 建設機械番号	運転 内容	作業時間 0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	時間計 昼	夜	作業区間	作業内容 作業量
	実作業																													
	その他																													
	実作業																													
	その他																													
	実作業																													
	その他																													
	実作業																													
	その他																													
	実作業																													
	その他																													
	実作業																													
	その他																													
	実作業																													
	その他																													

（記事欄）

（注）　待機を命令した時刻に○印、出動を命令した時刻に※印を記入すること。

（A4版）

様式（38）

主任監督員	監 督 員

除　雪　月　報（　月分）

工事

現場代理人　印

工種別延稼動時間

出張所名	機種／工種	除雪グレーダー（G）	除雪トラック（PO）	ロータリー除雪車（R）	ブル及びタイヤドーザー（B）	スノーローダー（L）	スノーメルター（M）	トラクターショベル（S）	ダンプトラック及びトラック（T）	歩道除雪車（SR）	運搬排雪車	備考
	新雪除雪											
	拡幅除雪											
	路面整正											
	運搬排雪											
	氷盤処理											
	その他											
	計											

（A4版）

様式（39）

除雪機械点検整備計画書

工事名：

請負会社名：　　現場代理人：

機械名	規格	機械番号	保存区分	点検等実施予定							備考
				10月	11月	12月	1月	2月	3月	点検実施予定者等	

様式（66）

平成　　年　　月　　日

支出又は分任支出負担行為担当官（官職氏名）　　殿

請負者住所

氏名　　㊞

指　定　部　分　引　渡　書

下記工事の指定部分を工事請負契約書第38条第1項に基づき引渡します。

工　　事　　名	
指　定　部　分	
全　体　工　期	
指定部分に係る工期	
請　負　代　金　額	
指定部分に係る請負代金額	
指定部分に係る検査年月日	

備考　1．監督職員に提出

（A4版）

様式（67）

平成　　年　　月　　日

支出又は分任支出負担行為担当官（官職氏名）　　殿

請負者住所

氏名　　㊞

指定部分完成通知書

下記工事の指定部分は、平成　　年　　月　　日をもって完成したので工事請負契約書第31条第1項に基づき通知します。

記

工事名

工期　自　平成　　年　　月　　日

　　至　平成　　年　　月　　日

請負代金額　¥＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

指定部分工期　自　平成　　年　　月　　日

　　至　平成　　年　　月　　日

指定部分に対する
請負代金額　¥＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

備考　1．国債工事の場合は、出来高予定額を記入すること。

　　2．主任監督員へ提出すること。

（A4版）

様式（68）

平成　　年　　月　　日

支出又は分任支出負担行為担当官（官職氏名）　　殿

請負者住所

氏名　　㊞

引　　渡　　書

下記工事を工事請負契約書第31条第４項に基づき引渡します。

１．工事名

２．請負代金額

３．検査年月日

備考　１．監督職員に提出

（A4版）

様式（69）

平成　　年　　月　　日

支出又は分任支出負担行為担当官（官職氏名）　　殿

請負者
住所
氏名　　㊞

完　成　通　知　書

下記工事は、平成　　年　　月　　日をもって完成したので工事請負契約書第31条第1項に基づき通知します。

記

1．工　事　名

1．請負代金額　　¥＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1．契約年月日　　平成　　年　　月　　日

1．完成期限　　平成　　年　　月　　日

備考　1．監督職員に提出

2．1　完成期限は工事請負契約書記載の完成期限

2　完成年月日は実際に完成した年月日

（A4版）

様式（73）

平成　　年　　月　　日

支出又は分任支出負担行為担当官（官職氏名）　　殿

請負者住所

氏名　　㊞

請負工事既済部分検査請求書

工事請負契約書第37条第2項により既済部分検査を請求します。

記

工事名	
工期	自　平成　　年　　月　　日
	至　平成　　年　　月　　日

備考　1．監督職員に提出

（A4版）

様式（75）

平成　　年　　月　　日

検査職員（官職氏名）　　殿

現場代理人　　㊞

平成　　年　　月　　日の（　　）検査において、修補指示されました部分につきましては、下記のとおり完了しましたので報告します。

修補完了報告書

工事名	

検査官の修補指示箇所及び修補内容

備考　1．監督職員に提出

（A4 版）

様式（77）

平成　　年　　月　　日

支出又は分任支出負担行為担当官（官職氏名）　　殿

確　　認　　書（かし修補）

平成　　年　　月　　日付けの○○○○工事に掛かるかし修補の請求については別紙請求内容のとおり、これを誠実に履行いたします。

1．かし修補の工事名

1．かし修補の工事期間

請負者住所

氏名　　㊞

（A4 版）

様式（78）

平成　　年　　月　　日

支出又は分任支出負担行為担当官（官職氏名）　　殿

請負者住所

氏名　　㊞

完　　成　　届（かし修補）

平成　　年　　月　　日付けで承諾した○○○○工事に掛かるかし修補については平成　　年　　月　　日をもって完成したので届けます。

（A4 版）

様式（79）

平成　　年　　月　　日

支出又は分任支出負担行為担当官（官職氏名）　　殿

請負者住所

氏名　　㊞

かし修補引渡書

平成　　年　　月　　日付け確認の○○○○工事に掛かるかし修補については平成　　年　　月　　日完成検査に適合したので引渡します。

（A4版）

様式（86）

χ-Rs-Rm 管理データーシート

名称		工事名		期間	自	平成　年　月　日	
品質・特性		出張所・監督官			至	平成　年　月　日	
測定単位		日標準量		請負者			
規格限界 上限値		試料 大きさ		現場代理人			㊞
規格限界 下限値		試料 間隔		測定者			㊞
設計基準値		作業機械名					

月日	試験番号	測定値 a	b	c	d	計 Σ	平均値 χ	移動範囲 Rs	測定値内の範囲 Rm
	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
	小計								
	6								
	7								
	8								
	小計								
	9								
	10								
	11								
	12								
	13								
	小計								
	14								
	15								
	16								
	17								
	18								
	19								
	20								
	小計								

	χ	Rs	Rm
平均			
累計			
小計			

	χ	Rs	Rm
平均			
累計			
小計			

	χ	Rs	Rm
平均			
累計			
小計			

	χ	Rs	Rm
平均			
累計			
小計			

記事

n	d_1	D_4	E_2
2	1.13	3.27	2.66
3	1.69	2.57	1.77
4	2.06	2.28	1.46
5	2.33	2.11	1.29

（注）　1．品質特性、測定単位は共通仕様書の品質管理図適用表により記入する。
　　2．規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
　　3．管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

（備考）— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
　　----- 上記の管理限界を適用する区間を示す。

4．以下最近の20個（平均値χを１個とする）のデータを用い次の10個に対する管理限界とする。

（A4版）

様式（86)の２

χ－Ｒｓ－Ｒｍ 管理データーシート　その２

月日	試験番号	測定値 a	b	c	d	計 Σ	平均値 χ	移動範囲 Rs	測定値の範囲内 Rm
	小計								

	χ	Rs	Rm
平均			
累計			
小計			

月日	試験番号	測定値 a	b	c	d	計 Σ	平均値 χ	移動範囲 Rs	測定値の範囲内 Rm
	小計								

	χ	Rs	Rm
平均			
累計			
小計			

月日	試験番号	測定値 a	b	c	d	計 Σ	平均値 χ	移動範囲 Rs	測定値の範囲内 Rm
	小計								

	χ	Rs	Rm
平均			
累計			
小計			

月日	試験番号	測定値 a	b	c	d	計 Σ	平均値 χ	移動範囲 Rs	測定値の範囲内 Rm
	小計								

	χ	Rs	Rm
平均			
累計			
小計			

記　事

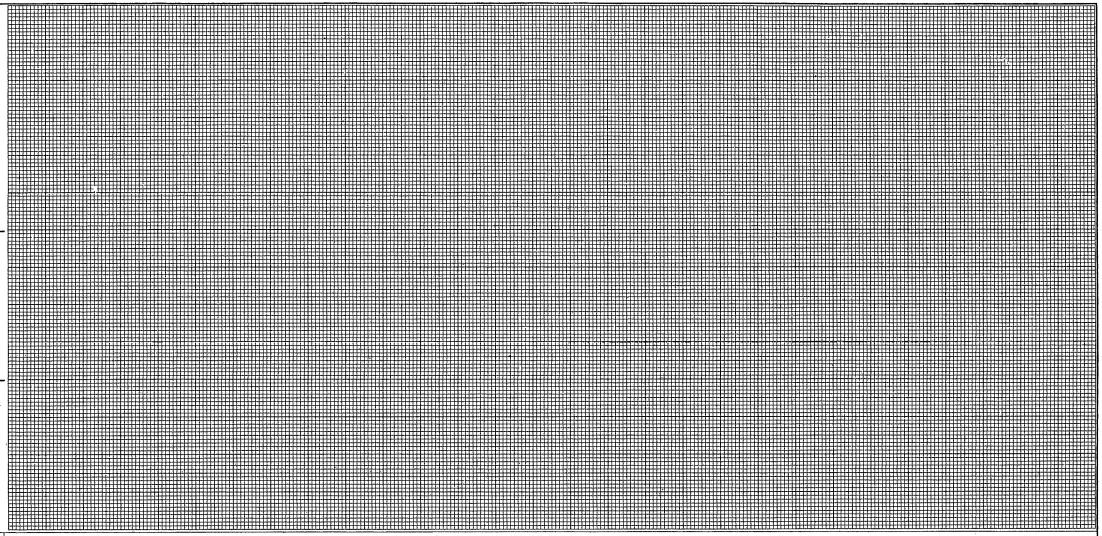
n	d_1	D_4	E_2
2	1.13	3.27	2.66
3	1.69	2.57	1.77
4	2.06	2.28	1.46
5	2.33	2.11	1.29

（A4版）

様式（87）

$x-R_s-R_m$ 管 理 図

設計基準値		工事名				工事	
名称		日標準量		期間	自	年 月 日	
品質特性		規格限界	上限値		至	年 月 日	
測定単位			下限値	会社名			
測定方法		試料	大きさ	現場代理人			印
作業機械名			間隔	測定者名			印

$\bar{x}$	
R_s	
R_m	
組の番号	
記事	

（A4 版）

様式（88）

土の試料整理表Ⅰ

工事名＿＿＿＿＿＿＿＿　位置＿＿＿＿＿＿＿＿

現場代理人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

測　定　者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

調 査 名＿＿＿＿＿＿＿＿

試料採取地名＿＿＿＿＿＿＿＿

試料採取期日　平成　　年　　月　　日

天　　候＿＿＿＿＿＿＿＿

採取方法＿＿＿＿＿＿＿＿

採取地略図

採取地の状態

試料番号	試料の種類	試料項目	ﾃﾞｰﾀｼｰﾄ番号	ページ

備考

（A4版）

様式（89）

土の直接せん断試験表1

工事名　　位置

試料採取地名　　試料採取月日

試験月日　　試料番号

現場代理人　　印

測定者　　印

せん断時の垂直荷重	N	最大せん断強さ	kN/m²
	kN/m²	そのときの水平変位	mm
せん断測定用ﾌﾟﾙｰﾋﾟﾝｸﾞﾘﾝｸﾞ補正係数	N/1/100mm	そのときの垂直変位	mm
[（補正係数／A）	kN/m² 1/100mm]	せん断速さ	

時間	水平変位		垂直変位		せん断応力			備考
	ﾀﾞｲﾔﾙ読み 1/100mm	水平変位 mm	ﾀﾞｲﾔﾙ読み 1/100mm	垂直変位 mm	ﾌﾟﾙｰﾋﾟﾝｸﾞﾘﾝｸﾞ読み 1/100mm	せん断力 N	せん断応力 kN/m²	

（A4版）

様式（90）

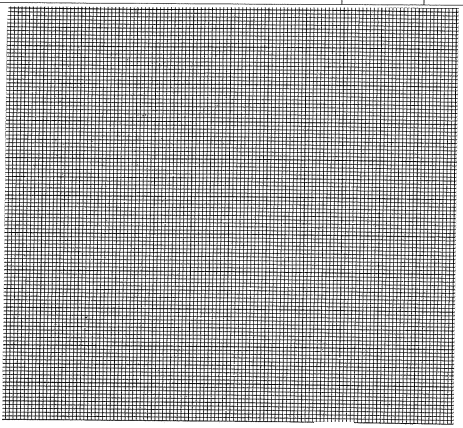
土の直接せん断試験表2

工事名		位置	
試料番号		試験月日	
試験機の型		試験方法：緩速・圧密急速・急速	
試料：乱さない・乱した		せん断方法：応力制御・ヒズミ制御	
供試体断面積	cm^2	ﾌﾟﾙｰﾋﾞﾝｸﾞﾘﾝｸﾞNo.	
供試体初期厚さ	cm	補正係数	N/1/100mm
供試体断体積	cm^3	土粒子の比重Gs	

現場代理人　　印

測定者　　印

供試体番号		1	2	3	4	5	6
初期の状態	供試体質量　W　g						
	湿潤密度　$\rho_t = W/V$　g/cm^3						
	含水比　ω　%						
	乾燥密度　$\rho d = 100\rho t/100+\omega$　g/cm^3						
	間ゲキ比　$e = G_s \rho_\omega / \rho_d - 1$						
	飽和度　$S_\rho = \omega Gs/e$　%						
せん断時の垂直荷重　σ　kN/m^2							
載荷（圧密）時間							
沈下量　cm							
せん断時の状態	供試体体積　V'　cm^3						
	供試体質量　W'　g						
	湿潤密度　$\rho' t = W'/V'$　g/cm^3						
	含水比　ω'　%						
	乾燥密度　$\rho' d = 100\rho' t/100+\omega'$　g/cm^3						
	間ゲキ比　$e' = G_s \rho_\omega / \rho' d - 1$						
	飽和度　$S'_\rho = \omega' Gs/e'$　%						
せん断速さ							
最大せん断強さ　τ　kN/m^2							



粘着力　c ＝ _____ kN/m^2

内部摩擦角　ϕ ＝ _____

$\tan\phi$ ＝ _____

先行圧密荷重に対するせん断強さ

$\tau\sigma$ ＝ _____ kN/m^2

（A4版）

様式（91）

土の遠心含水当量（JIS A1207）

工事名　　位　置

試料採取地名　　試験月日

試料番号　　現場代理人

測　定　者

遠心含水当量試験			現場含水当量試験
測定番号	1	2	容器番号
るつぼ番号			WW
るつぼ質量　Wc　g			DW　TW Ww　Ws
かわいたロ紙の質量　We　g			現場含水当量 W_f =
湿ったロ紙の質量　Wd　g			容器番号
遠心分離後の（るつぼ＋湿紙＋土）質量　Wa　g			WW
炉乾燥分離後の（るつぼ＋乾紙＋土）質量　Wb　g			DW　TW Ww　Ws
（Wa－Wd）　g			現場含水当量 W_f =
（Wb－We）　g			容器番号
（Wa－Wd）－（Wb－We）　g			WW
Wb－（Wc＋We）　g			DW　TW Ww　Ws
遠心含水当量　wc　%			現場含水当量 W_f =
平　均　値	wc = ＿＿＿＿%		平均値 W_f = ＿＿＿＿%

備　考

$$\omega_c = \frac{(Wa-Wd)-(Wb-We)}{Wb-(Wc+We)} \times 100$$

試験は2回行い、2箇の試験結果を比較する。
その差は含水当量15%までのものは1%、15%
以上のものは2%を超過してはならない。
試料は標準網ふるい420μを通過したもの

（A4版）

様式（92）

現場密度測定試験（置換法）

工事名

位置　　現場代理人

測定者

$$含水比\% = \frac{WW(湿潤土+容器の質量)-DW(乾燥土+容器の質量)}{DW(乾燥土+容器の質量)-TW(容器の質量)} \times 100$$

$$= \frac{Ww(試料中の水の質量)}{Ws(乾燥土の質量)} \times 100$$

$$\rho t(湿潤密度)\ g/cm^3 = \frac{Wws(湿潤土の質量)}{TV(穴の容積)} \qquad \rho d(乾燥密度)\ g/cm^3 = \frac{\rho t(湿潤密度)}{100+含水比}$$

WW測定日時 試験名及び試料番号	含水比の測定	含水比 %	密度の測定	密度 g/cm³	備考
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		湿潤土質量Wws 穴の容積TV	ρt ρd	
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		湿潤土質量Wws 穴の容積TV	ρt ρd	
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		湿潤土質量Wws 穴の容積TV	ρt ρd	
平　均			平　均		
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		湿潤土質量Wws 穴の容積TV	ρt ρd	
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		湿潤土質量Wws 穴の容積TV	ρt ρd	
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		湿潤土質量Wws 穴の容積TV	ρt ρd	
平　均			平　均		

（A4版）

様式（93）

現場密度測定試験（モールド円筒法）

工事名　　現場代理人

位置　　測定者

$$含水比\% = \frac{WW(湿潤土+容器の質量) - DW(乾燥土+容器の質量)}{DW(乾燥土+容器の質量) - TW(容器の質量)} \times 100$$

$$= \frac{Ww(試料中の水の質量)}{Ws(乾燥土の質量)} \times 100$$

$$\rho t(湿潤密度)\ g/cm^3 = \frac{WW(湿潤土+容器の質量) - TW(容器の質量)}{TV(容器の容積)}$$

$$= \frac{Wws(湿潤土の質量)}{TV(容器の容積)} \qquad \rho d(乾燥密度)\ g/cm^3 = \frac{\rho t(湿潤密度)}{100+含水比}$$

WW測定日時 試験名及び試料番号	含水比の測定	含水比 %	密度の測定	密度 g/cm³	備考
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		容器番号 WW　Wws TW　TV	ρt ρd	
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		容器番号 WW　Wws TW　TV	ρt ρd	
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		容器番号 WW　Wws TW　TV	ρt ρd	
平　均			平　均		
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		容器番号 WW　Wws TW　TV	ρt ρd	
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		容器番号 WW　Wws TW　TV	ρt ρd	
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		容器番号 WW　Wws TW　TV	ρt ρd	
平　均			平　均		

（A4版）

様式（94）

現場飽和度・空気間ゲキ率測定試験

（現場密度測定試験置換法による）

工事名　　現場代理人

位置　　測定者

$$w\,(\text{含水比})\,\% = \frac{\text{WW}(\text{湿潤土}+\text{容器の質量}) - \text{DW}(\text{乾燥土}+\text{容器の質量})}{\text{DW}(\text{乾燥土}+\text{容器の質量}) - \text{TW}(\text{容器の質量})} \times 100$$

$$= \frac{Ww\,(\text{試料中の水の質量})}{Ws\,(\text{乾燥土の質量})} \times 100$$

$$\rho t\ (\text{湿潤密度})\ \text{g/cm}^3 = \frac{Wws\ (\text{湿潤土の質量})}{\text{TV}(\text{穴の容積})} \qquad \rho d\ (\text{乾燥密度})\ \text{g/cm}^3 = \frac{\rho t\ (\text{湿潤密度})}{100 + \text{含水比}}$$

$$S\rho\ (\text{飽和度})\,\% = \left\{ \frac{Gs\ (\text{土粒子の比重}) \times \rho d\ (\text{土の乾燥密度}) \times w\ (\text{含水比})}{Gs\ (\text{土粒子の比重}) \times \rho\omega\ (\text{水の単重}) - \rho d\ (\text{土の乾燥密度})} \right\} \times 100$$

$$Va\ (\text{空気間シゲキ率})\,\% = \left\{ 1 - \frac{\rho d\ (\text{土の乾燥密度})}{\rho\omega\ (\text{水の単重})} \left(w\ (\text{含水比}) + \frac{1}{Gs\ (\text{土粒子の比重})} \right) \right\} \times 100$$

WW測定日時 試験名及び試料番号	含水比の測定	含水比 %	密度の測定	密度 g/cm³	土粒子 の比重	飽和度又 は空気間 ゲキ率%	備考
月日時	容器番号 WW		湿潤土の質量Wws	ρt		Sρ	
	DW TW						
試料No	Ww Ws		穴の容積 TV	ρd		Va	
月日時	容器番号 WW		湿潤土の質量Wws	ρt		Sρ	
	DW TW						
試料No	Ww Ws		穴の容積 TV	ρd		Va	
月日時	容器番号 WW		湿潤土の質量Wws	ρt		Sρ	
	DW TW						
試料No	Ww Ws		穴の容積 TV	ρd		Va	
平均							
月日時	容器番号 WW		湿潤土の質量Wws	ρt		Sρ	
	DW TW						
試料No	Ww Ws		穴の容積 TV	ρd		Va	
月日時	容器番号 WW		湿潤土の質量Wws	ρt		Sρ	
	DW TW						
試料No	Ww Ws		穴の容積 TV	ρd		Va	
月日時	容器番号 WW		湿潤土の質量Wws	ρt		Sρ	
	DW TW						
試料No	Ww Ws		穴の容積 TV	ρd		Va	
平均							

（A4版）

様式（95）

現場飽和度・空気間ゲキ率測定試験

（現場密度測定試験モールド円筒法による）

工事名　　現場代理人

位置　　測定者

w（含水比）%$=\dfrac{WW(湿潤土+容器の質量)-DW(乾燥土+容器の質量)}{DW(乾燥土+容器の質量)-TW(容器の質量)}\times100$

$=\dfrac{Ww(試料中の水の質量)}{Ws(乾燥土の質量)}\times100$

ρt（湿潤密度）g/cm$^3=\dfrac{WW(湿潤土+容器の質量)-TW(容器の質量)}{TV(容器の容積)}=\dfrac{Wws(湿潤土の質量)}{TV(容器の容積)}$

ρd（乾燥密度）g/cm$^3=\dfrac{\rho t(湿潤密度)}{100+含水比}$

$S\rho$（飽和度）%$=\left\{\dfrac{Gs(土粒子の比重)\times\rho d(土の乾燥密度)\times w(含水比)}{Gs(土粒子の比重)\times\rho\omega(水の単重)-\rho d(土の乾燥密度)}\right\}\times100$

Va（空気間ゲキ率）%$=\left\{1-\dfrac{\rho d(土の乾燥密度)}{\rho\omega(水の単重)}\left(w(含水比)+\dfrac{1}{Gs(土粒子の比重)}\right)\right\}\times100$

WW測定日時 試験名及び試料番号	含水比の測定	含水比 %	密度の測定	密度 g/cm^3	土粒子 の比重	飽和度又 は空気間 ゲキ率%	備考
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		容器番号 WW　Wws TW　TV	ρt ρd		$S\rho$ Va	
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		容器番号 WW　Wws TW　TV	ρt ρd		$S\rho$ Va	
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		容器番号 WW　Wws TW　TV	ρt ρd		$S\rho$ Va	
平　均							
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		容器番号 WW　Wws TW　TV	ρt ρd		$S\rho$ Va	
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		容器番号 WW　Wws TW　TV	ρt ρd		$S\rho$ Va	
月　日　時 試料No	容器番号　WW DW　TW Ww　Ws		容器番号 WW　Wws TW　TV	ρt ρd		$S\rho$ Va	
平　均							

（A4版）

様式（96）

骨材の単位容積重量試験（JIS　A1104）

工事名　　位　置

試料採取
地　名

現場代理人　　印

測　定　者　　印

測定年月日	天候	A kg	B kg	C ℓ	D kg	比重＝A/D	単位容積重量＝D/C	
							標準単重	
							軽盛単重	
							標準単重	
							軽盛単重	
							標準単重	
							軽盛単重	
							標準単重	
							軽盛単重	
							標準単重	
							軽盛単重	
							標準単重	
							軽盛単重	
							標準単重	
							軽盛単重	
							標準単重	
							軽盛単重	
							標準単重	
							軽盛単重	
							標準単重	
							軽盛単重	

注）　A　容器＋試料質量
　　B　容器の質量
　　C　容器の容積
　　D　試料の質量

（A4版）

様式（97）

ホットビンにおけるふるい分け試験

工　事　名

位　　置

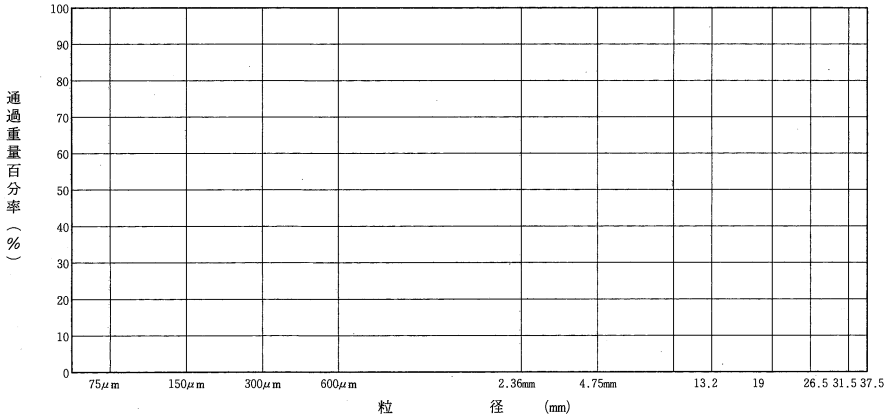
工　種　名　　現場代理人

試験年月日　　測　定　者

ホットビン種別 / ふるい目の大きさ(mm)	第1ビン		第2ビン		第3ビン		第4ビン		第5ビン		石　粉		合成粒度	
	残留%	計量比率%	残留%	計量比率%	残留%	計量比率%	残留%	計量比率%	残留%	計量比率%	残留%	計量比率%	残留%	計量比率%
37.5～31.5														
31.5～26.5														
26.5～19														
19～13.2														
13.2～4.75														
4.75～2.36														
2.36～600μm														
600～300														
300～150														
150～75														
75以下														
計														

アスファルト混合物（骨材）合成粒度曲線

・…・…・粒度範囲
・ー・ー・指定粒度
⟵・⟶ 合成粒度



（A4 版）

様式（98）

まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験結果表 JIS A1112

工事名　　試料採取箇所　　現場代理人

用途（構造物名）　　試験年月日　　年　月　日　天候　　測　定　者

設計条件	粗骨材最大寸法	mm	スランプ	cm	空気量	%	セメント量	kg／m³	基準強度	N/mm²	混和剤	

資料番号No	予備試験による比重			試料(g)	容器の空中重量(g)	容器の水中重量(g)	試料の空中重量(g)	中重量容器＋試料の水(g)	試料の水中重量(g)	ものの水中重量いにとどまった容器＋5mmふるる(g)	量どまった水中重5mmふるいにと(g)	た水中重量ふるいにとどまっ容器＋○・一五mm(g)	水中重量いにとどまった○・一五mmふる(g)	材料別重量			
	セメント	細骨材	粗骨材											セメント(g)	細骨材(g)	粗骨材(g)	水(cc)
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
							④−⑤		⑧−⑥		⑩−⑥		⑫−⑥	$\{⑨-(⑪+⑬)\}\frac{①}{①-1}$	$⑬\times\frac{②}{②-1}$	$⑪\times\frac{③}{③-1}$	⑦−(⑭+⑮+⑯)
平均値																	

単位重量（kg／cm³）

項目＼種別	セメント(kg)	細骨材(kg)	粗骨材(kg)	水（ℓ）	計	スランプ(cm)	空気量(%)
配合	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒		
					⑱+⑲+⑳+㉑		
実測試験結果	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗		
	$⑭\times\frac{㉒}{⑦}$	$⑮\times\frac{㉒}{⑦}$	$⑯\times\frac{㉒}{⑦}$	$⑰\times\frac{㉒}{⑦}$	㉓+㉔+㉕+㉖		

（A4版）

様式（99）

コンクリート中の塩分測定表

工　事　名

主任監督員　　印
監　督　員　　印

測定年月日	工　区	ｺﾝｸﾘｰﾄの種類	混和剤の種類（m^3当りの使用量）	ｾﾒﾝﾄの種類	単位水量（kg/m^3）	測定器名	測定値（%）又は空欄（上段）（塩分量（kg/m^3））			測定者	備　考
							1	2	3		

備考：測定結果に対する処置を講じた事項等を記入する。

注）塩分濃度を（%）で測定した場合（上段）は、次式で塩分量を求める。　塩分量（kg/m^3）＝（単位水量（kg/m^3））×測定値）÷100　（A4版）

様式（100）

総　括　表（1）

構造物名

年　度	工　事　名	施　工　地　先	施　工　位　置	摘　　要

（注）　・施工位置はキロ標等を記入。（バイパス等でキロ標が未設定の場合は摘要欄に測点No.を記入）
・年度：国債工事の場合は○○年度～○○年度として記入。

（出典）　「建設材料の品質記録保存業務実施要領（案）」による。

（A4版）

東北地方整備局版様式を使用のこと

様式（101）

総　括　表（2）

年　　度
工 事 名
施工地先

構造物の種類	番　号	施　工　位　置	摘　　要

（注）　・番号は図面対象番号を記入。
・施工位置はキロ標等を記入。（バイパス等でキロ標が未設定の場合は摘要欄に測点No.を記入）
・年度：国債工事の場合は○○年度～○○年度として記入。

（出典）　「建設材料の品質記録保存業務実施要領(案)」による。　　（A4版）

東北地方整備局版様式を使用のこと

様式（102）

生コンクリート品質記録表

（1）配　　合

年　　度
工 事 名
施工業者

番号	種別	強度		粗骨材最大寸法 (mm)	ｽﾗﾝﾌﾟの範囲 (cm)	空気量 (%)	水ｾﾒﾝﾄ比W/C (%)	細骨材率s/a (%)	単位量 (kg/m³)							生ｺﾝｸﾘｰﾄ会社名	JIS工場指定の有無	摘要
		呼び強度	設計基準強度 (N/mm²)						水 W	ｾﾒﾝﾄ C	細骨材 S	粗骨材G		混和材料				
												5mm ～ mm	mm ～ mm	混和材	混和剤 (ml/m³)			

（注）・番号は図面対象番号である。
・設計基準強度毎に、標準配合、特注配合、規格外の種別を書く。
・摘要欄には構造物名を記入。
・セメント欄には使用量とセメント名（N、H、ＢＢ等　ＪＩＳ　A5308のセメントの種類による区分上の記号）を記入。
・特殊な混和剤（流動化剤、スチールファイバーなど）を用いた場合は添加方法を摘要欄に記入。

（出典）「建設材料の品質記録保存業務実施要領(案)」による。

（A4版）

東北地方整備局版様式を使用のこと

様式（103）

コンクリート二次製品の品質記録表

（1）配　　合

年　　度
工 事 名
施工業者

番号	製品名	設計基準強度（N/mm²）	粗骨材最大寸法（mm）	ｽﾗﾝﾌﾟの範囲（cm）	空気量の範囲（%）	水ｾﾒﾝﾄ比W/C（%）	細骨材率s/a（%）	単位量（kg/m³）							製造会社工場名	JIS工場指定の有無	摘　要
								水W	ｾﾒﾝﾄC	細骨材S	粗骨材G		混和材料				
											5mm ～ mm	mm ～ mm	混和材	混和剤（ml/m³）			

（注）・番号は製品毎に図面に表示し、それを記入。
・製品名は使用したコンクリート製品名を記入。
・設計基準強度は、JISで規定がある場合は規定強度、ない場合はコンクリート製造工場が定めている強度を記入。
・配合については、コンクリート製造工場が定めている配合を記入。

（出典）「建設材料の品質記録保存業務実施要領(案)」による。

（A4版）

東北地方整備局版様式を使用のこと

様式（104）

（２）材料特性

年　　度
工 事 名
施工業者

①セメント

番　　号						製造会社 工 場 名	製造月日	摘　　要
項目＼種類		ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ	高炉ｾﾒﾝﾄ					
種　　類								
比　　重								
比表面積cm^2/g								
凝結	始発 h-m							
	終結 h-m							
安定性								
圧縮強さ（N/mm^2）	1 day							
	3 day							
	7 day							
	28day							
水和熱（J/g）	7 day							
	28day							
酸化ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ　（%）								
三酸化硫黄　（%）								
強熱減量　（%）								
けい酸三ｶﾙｼｳﾑ（%）								
ｱﾙﾐﾝ酸三ｶﾙｼｳﾑ（%）								
全アルカリ　（%）								
塩　　素　（%）								

（注）
- 番号は図面対象番号である。
- ｾﾒﾝﾄの種類は、普通、早強、高炉Ａ、Ｂ等と記入しそれぞれＪＩＳに規定された品質項目について記入。
- 各項目については、ｾﾒﾝﾄ会社が生ｺﾝｸﾘｰﾄ製造会社に提出した試験成績表を参考に記入する。
- 全アルカリ度については、ｾﾒﾝﾄ会社が試験しているNa2O＋0.658K2O－R2Oの値を記入する。
- 複数の生ｺﾝ工場を使用する場合は余白に記入する。
- 製造年月は試験成績表に記載してある年月。
- 製造年月が異なるｾﾒﾝﾄを使用した場合は余白に記入し摘要欄に番号を記入。
- 製造会社は必ず記入、工場名はわかる範囲で記入。

（出典）「建設材料の品質記録保存業務実施要領(案)」による。

（A4版）

東北地方整備局版様式を使用のこと

様式（105）

（２）材料特性

年　　度
工 事 名
施工業者

②骨材

番号	材料名		絶乾比重	吸水率（%）	粘土塊量（%）	洗い試験によって失われる量（%）	原石名	塩分 NaCl（%）	単位容積質量（kg/m^3）	実績率又は粗粒率	混合割合（%）	産　地	販売会社	摘　要
	細粗の別	種類												

（注）
・番号は図面対象番号を記入。
・材料名は細・粗骨材番号を区分し、海砂、川砂、山砂、砕砂、砂利、砕石等と記入。
・原石名は、何種類もあるときは採取されている原石とする。（玄武岩、安山岩etc）
・混合割合は海砂50%、山砂30%、砕砂20%等と記入。
・産地は○○市○○町○○地先と記入する。
・販売会社は採取業者とする。
・摘要にはNaclの測定法を記入。
・細骨材は、粗粒率、粗骨材は実績率を記入。

（出典）「建設材料の品質記録保存業務実施要領(案)」による。

（A4版）

東北地方整備局版様式を使用のこと

様式（106）

（２）材料特性

年　度
工事名
施工業者

③混和材料

番　号						製造会社工場名	製造年月	摘　要
種　類		ＡＥ剤	撥水剤	ＡＥ減水剤				
品　名								
種　類								
減水率（%）								
ﾌﾞﾘｰｼﾞﾝｸﾞ量の比（%）								
凝結時間の差（min）	始発							
	終結							
圧縮強度比（%）	3 day							
	7 day							
	28day							
長さ変化比（%）								
凝結融解に対する抵抗性（相対動弾性係数%）								
Cl（重量）（%）								

（注）
・番号は図面対象番号を記入。
・混和剤の種類は、標準形、遅延形、促進形等を記入。
・各項目については、混和材料ﾒｰｶｰが生ｺﾝｸﾘｰﾄ会社に提出した試験成績表を参考に記入する。
・製造年月が異なるｾﾒﾝﾄを使用した場合は余白に記入し摘要欄に番号を記入。
・製造年月は品質検査、試験成績表に記載してある年月。

（出典）「建設材料の品質記録保存業務実施要領(案)」による。

（A4版）

東北地方整備局版様式を使用のこと

様式（107）

（3）コンクリートの品質試験結果

年　　度
工 事 名
施工業者

番号	種 別	呼び強度	設計基準強度 (N/mm²)	配合強度 (N/mm²)	σ28強度（N/mm²）				スランプ（cm）			空気量（%）			摘 要
					最大	最小	平均	試験個数	最大	最小	試験個数	最大	最小	試験個数	

（注）・種別欄は標準品か特注品の別を記入。
・呼び強度は、JIS　A5308（当該年度のもの）適用。
・配合強度は、変動係数等を考慮して各生ｺﾝｸﾘｰﾄ工場で定めている強度。
・σ28強度は、呼び強度毎の試験結果とする。
・スランプは、呼び強度毎の試験結果とする。
・空気量は、呼び強度毎の試験結果とする。
・σ７で管理した場合は、σ28の欄の上段に記入。
・摘要欄に構造物名を記入。
・特殊混和剤を用いた場合は添加後のスランプ、空気量を（　　）書きで上段に記入。

（出典）「建設材料の品質記録保存業務実施要領(案)」による。

（A4版）

東北地方整備局版様式を使用のこと

様式（108）

（3）コンクリートの二次製品の品質

年　度
工事名
施工業者

番号	製品名	配合強度 (N/mm²)	コンクリート強度（N/mm²）			製品試験強度 (N/mm²)	形状寸法	JIS製品の有無	製造年月	製造会社工場名	摘　要
			最大	最小	平均						

（注）　・番号は製品毎に図面に表示し、それを記入。
・コンクリート強度は、コンクリート製造工場が日々管理している圧縮強度の製造月の月平均値を記入。
・製品試験強度はJISで規定されている試験方法で実施した結果を記入。

（出典）　「建設材料の品質記録保存業務実施要領(案)」による。

（A4版）

東北地方整備局版様式を使用のこと

様式（109）

（４）打設関係

年　度
工事名
施工業者

番号	打設期間	打設数量	打設気温	打設方法	養成方法	打設会社名	摘　要
							H＝　L＝　φ＝

（注）・番号欄は、図面対象番号を記入。
・打設期間は、同種のコンクリートの打設開始から打設終了までの期間を記入。
・打設方法は、シュート、バケット、ポンプ打設等を記入。
・養成方法は、湿潤、練炭、電熱養成等を記入。
・打設会社名は、ポンプ打設の場合のみ記入。
・摘要欄に生コンの運搬時間（H）、ポンプによる圧送距離（L）、使用管径（φ）を記入。
・打設気温は打設時に測定した気温の最高と最低を記入。(外気温とする。)又保温養成を行った場合は保温期間の養成気温の最高と最低を(　　)で併記する。

（出典）「建設材料の品質記録保存業務実施要領(案)」による。

(A4版)

東北地方整備局版様式を使用のこと

様式（110）

くい打成績表

工事名　　現場代理人　　印

打込箇所　　出来形管理担当者　　印

くい打込み月日	くい番号 くい径（cm）	R ﾓﾝｷｰの重さ（t）	h ﾓﾝｷｰの落下高（cm）	a 測定前くい頭の高さ（cm）	b 打撃回数（回）	c 測定後くい頭の高さ（cm）	沈下量 J=a-c/b（cm）	支持力 P（t）	測定者	摘要
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										
月　日										

設計支持力　　公式

くい配置図

（A4版）

様式（111）

機械ボーリング作業日報

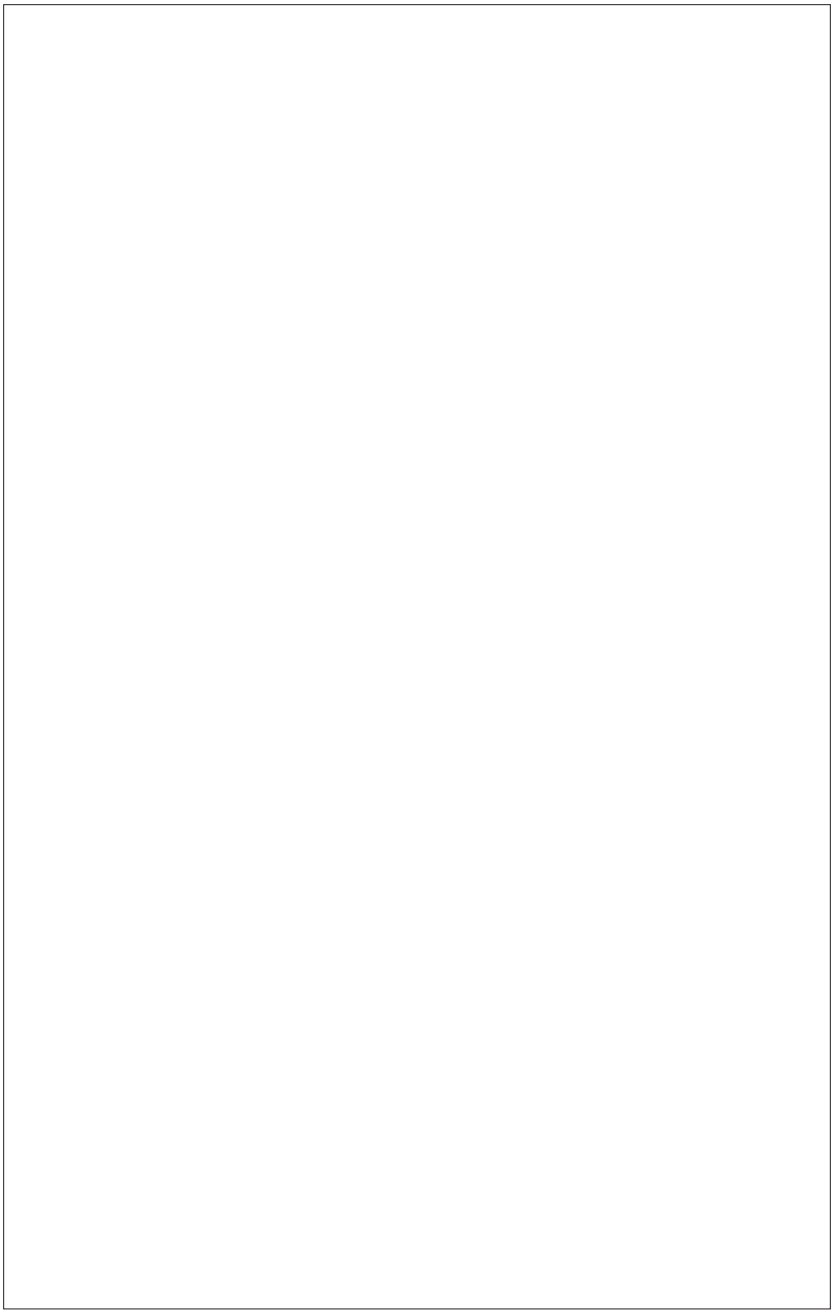
現場代理人　　印

工　事　名			調査場所名		
調査地点番号		調査月日		天　候	
調査地点標高		予定深度		掘進深度	日深度 累　計
機　械　名		能　力		孔　径	
作業内容			使用材料		

月／日	深度		地下水 湧水 漏水	岩相				コア		試料番号	ﾋﾞｯﾄ名	回転数 回/min	掘進速度 cm/min	摘要
		累計		記号	分類	色調	硬軟 その他記事	長さ	採取率					
	1													
	2													
	3													
	4													
	5													
	6													
	7													
	8													
	9													
	10													
摘　要	地下水については、湧水、漏水などが起こった場合、その深度水量について記載する。 掘進の難易について記載する。 その他・気づいた点を詳細に記載する。													

（注）本表は1週間まとめて提出することができる。

（A4版）



様式（113）

放射線透過試験記録書

工　事　名		試験技術者の所属氏名	印
杭　番　号		確　認　員	印
杭の材質 母材の肉厚mm		確認月日	
撮影年月日			

1．試験条件

使用装置及び材料	(a) 放射線透過装置名	
	(b) 実行焦点寸法	
	(c) フィルム及び像感紙の種類	
	(d) 透過度計の種類	
	(e) 階調計の種類	
撮影条件	(a) 使用管電圧又は放射性同位元素の種類	
	(b) 使用管電流又は放射線の強さ	
	(c) 露出時間	
撮影配置	(a) Ｌ１＋Ｌ２	
	(b) Ｌ２	
	(c) Ｌ３	
現像条件	(a) 現像液・現像温度・現像時間（手現像）	
	(b) 自動現像機名及び現像液（自動現像）	

2．試験結果の判定　　母材の厚さ（　　）　　試験視野（　　）

きずの区分					
第１種のきず	きず番号	きず長径	きず点数	個別分類	総合分類
有　無	No1	mm	点		
	No2	mm	点		
	No3	mm	点		
	小計	mm	点	（　）類	
第４種のきず	きず番号	きず長径	きず点数	個別分類	
有　無	No1	mm	点		
	No2	mm	点		
	No3	mm	点		
	小計	mm	点	（　）類	
第２種のきず	きず番号	きず長径	きず点数	個別分類	
有　無	No1	mm	点		
	No2	mm	点		
	No3	mm	点		
	小計	mm	点	（　）類	
第３種のきず 有　無				（　）類	総合 （　）類

（A4版）

様式（114）

塗装膜厚測定表

工事名				工種名				現場代理人		
								監理技術者		
ロット番号				請負会社名				主任技術者		
								施工管理担当者		
塗装系						基準膜厚合計値			μ	
測定時点	工場塗装終了後				現場塗装開始前			現場塗装終了後		
測定月日						測定者			印	
測定位置										
	1	2	3	4	5	計	平均$\overline{X}i$	$X-\overline{X}i$	$(X-\overline{X}i)^2$	
1										
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										
25										
合計										
平均値$\overline{X}$＝								標準偏差　S＝		

平均値　$\overline{X}=\frac{1}{N}\sum_{i=1}^{N}Xi$	
標準偏差　$S=\sqrt{\frac{1}{N-1}\sum_{i=1}^{N}(\overline{X}-Xi)^2}$	

（A4版）

様式（115）

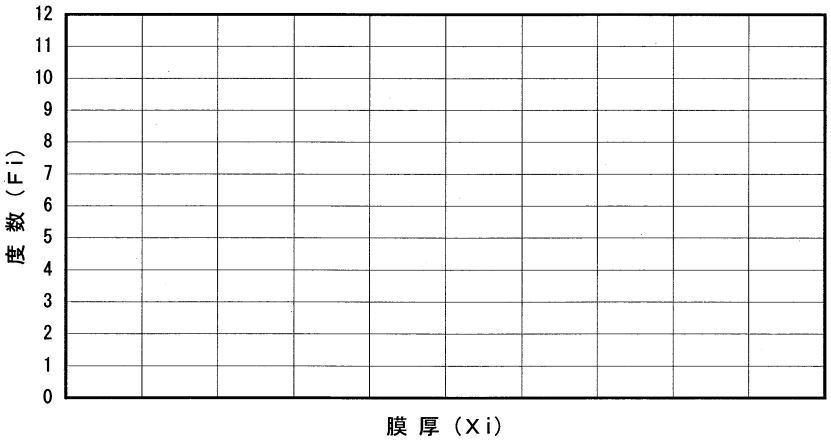
塗装膜厚測定成績表

ロット番号		現場代理人	
		監理技術者	
		主任技術者	
		施工管理担当者	
測定時点		目標塗装膜厚	μm

平均値Xおよび標準偏差S		判定	
平均値	$\overline{X}=\frac{1}{N}\sum_{i=1}^{N}xi=$ μm	標準偏差S＝	標準偏差×0.2＝
		平均値$\overline{X}$＝	標準偏差×0.9＝
標準偏差	$S=\sqrt{\frac{1}{N-1}\sum_{i=1}^{N}(\overline{X}-Xi)^2}=$ μm	5点平均値の最小値 ＝	標準偏差×0.7＝

度数分布			
膜厚Xiのクラス	中央値	チェック	度数Fi

ヒストグラム



（A4版）

様式（116）

場所打杭（機械掘削）の施工記録

年度		杭長		コンクリート天端高		鉄筋天端高		コンクリート量(m3)		杭平面図偏位置	
工事名		設計長		設計高		設計高		設計量			
工事場所		施工長		施工高		施工高		施工量			
請負者名		調査時土質		標高	深度	施工時			現場代理人	印	
立会人		柱状図	土質名	N値		ケーシング配管	トレミー管配管	杭位置図	監理技術者	印	
請負人担当者名									掘削記録	コンクリート関係施工時間	
施工年月日											
天候（気温）											
施工場所											
杭径											
杭長											
主筋本数											
施工方法											
施工機械器具	掘削機本体										
	クレーン										
	トレミー管										
	ケーシングチューブ										
	その他主要器具										
杭の位置図											
		特記事項			沈殿物処理					コンクリート関係	
					処理時間					スランプ	cm
										空気量	%

（A4版）

場所打コンクリート杭施工記録表

工事名：

平成　年　月　日　　施工番号　No.

		時間 7:00 8:00 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00 20:00 21:00 22:00 23:00 24:00 1:00 2:00 3:00 4:00 5:00 6:00 7:00
杭番号	No.	深度m
杭径	mm	5
掘削長	m	
杭長	m	10
ｺﾝｸﾘｰﾄ量	m^3	
所要時間	時間　分	15
使用機械		20
		25
		30
工程	①ﾊﾟﾜｰｼﾞｬｯｷ設置・撤去	
	②ｽﾀﾝﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ建込	35
	③ｸﾗﾌﾞﾊﾝﾏｰ掘削	
	④ﾛｰﾀﾘｰﾃｰﾌﾞﾙ設置・撤去	40
	⑤掘削	
	⑥ロッドジョイント	45
	⑦孔壁測定	
	⑧鉄筋建込	50
	⑨トレミー管建込	
	⑩スライム処理	55
	⑪コンクリート打込	
	⑫埋め戻し	60
	⑬ｽﾀﾝﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ引抜	
	⑭段取り	65
	⑮片付け	
	⑯その他	70

（A4 版）

様式（118）

鉄筋ガス圧接超音波探傷検査記録

施工業者			
工 事 名			
圧接業者名			
圧接者名			
圧接工法			
検査期日			
検査範囲			
検査基準			
検査技術者及び資格			
母材の材質呼び名・表示径			
探　傷　器			
探傷器名		製造番号	
点検年月日		点検責任者	
探　触　子			
製造者名		製造番号	
呼　　称		実測屈折角	
付　属　品			
接触媒質			
治　　具			

検　査　位　置　図

（A4版）

工　事　打　合　簿

発　議　者	□発注者　　□請負者	発議年月日	平成　　年　　月　　日
発議事項	□指示　□協議　□通知　□承諾　□報告　□提出　□届出　□その他（　）		
工　事　名			

（内　容）

下記に示す試験内容で実施した試験の結果を別紙の通り報告します。

位置：

試料採取地名（箇所）

工種：

試験月日：

以下の項目は圧密試験の場合に記入する。

試料の状態：（乱さない・繰り返した）

試験期間：

添付図　　葉、その他添付図書

処理・回答	発注者	上記について□指示・□承諾・□協議・□通知・□受理します。 □その他 平成　　年　　月　　日
	請負者	上記について□了解・□協議・□提出・□報告・□届出します。 □その他 平成　　年　　月　　日

総括監督員	主任監督員	監督員

現場代理人	主任（監理）技術者

（A4版）

（白　紙）